

# 講座の内容紹介

写真は 2023 年度 20 期・2024 年 21 期講座アルバムより。

22期講座では場所や講師が変更になるものもある。

<h2>動植物の多様性を学ぶ</h2> <p>自然を学ぶ基礎となる生態学を学習後、大阪各地のフィールドで、様々な動植物の専門家から生物観察の基礎を学ぶ。</p>		
<h3>生態学入門</h3> <p>生態学(Ecology)の定義 「生物と環境との相互作用を説明する科学」 (Haeckel) 生き物の「生態」を明らかにすることは、最も重要ではあるが、生態学の最終目的ではない。</p>  <p>大学で学ぶ生態学を基礎からわかりやすく講義。</p> 	<h3>植物・キノコ観察</h3>  <p>春はタンポポを中心に草本について、秋はどんぐりを中心に樹木やキノコの観察を楽しむ。</p>  <p>植物の観察のポイントや生存戦略、キノコの見分け方や役割を学ぶ。</p>	<h3>昆虫の観察</h3>  <p>カマキリの形態をじっくり観察。生態を考える。</p>  <p>みんなで採集した昆虫の説明を聞く。</p> <p>鶴見緑地と枚岡公園で昆虫を採集し形態を観察。生態について学ぶ。</p>
<h3>野鳥の観察</h3>  <p>千早赤阪村の里山で猛禽類のサシバを観察。その暮らしを考える。</p>  <p>南港野鳥園で渡り鳥を観察</p> <p>南港野鳥園で渡り鳥を、千早赤阪村の里山で猛禽類を観察する。</p>	<h3>野生動物の観察</h3>  <p>哺乳類：この糞はどの動物の糞？</p>  <p>両生・爬虫類：腹部が白く、ヌマガエルとわかる。</p> <p>哺乳類を箕面公園で、両生・爬虫類を枚方市穂谷の里山で観察する。</p>	<h3>磯の生物の観察</h3>  <p>採集した磯の動物の名前や生態・調査方法を学ぶ。</p>  <p>潮が引いた磯の岩上にカメノテを発見。</p> <p>岬町の長松海岸で、磯の動植物を採集して観察。調査方法も学ぶ。</p>
<h2>自然環境保全の取組み</h2> <p>河川・海岸・干潟や森林・草原における植生や動植物の保全のための各地の取組みから、自然環境の保全や復元の手法を学ぶ。</p>		
<h3>淀川環境復元</h3> <p>投網で採集したオオクチバス</p>   <p>城北ワンドで外来魚の駆除を体験</p> <p>魚類などの宝庫である城北ワンド周辺で観察し、保全の取組を学ぶ。</p>	<h3>干潟の生物保全</h3> <p>ハクセンシオマネキの雌雄</p>   <p>甲子園浜で動植物を観察</p> <p>男里川河口干潟や甲子園浜で動植物を観察。その保全について学ぶ。</p>	<h3>シカと植生保全</h3> <p>シカが口にできなかったイラクサも最近は食べるようになった。</p>   <p>日本全国で広がるシカの植生への影響が奈良公園ではよくわかる</p> <p>奈良公園～春日山原始林を歩き、植生の成り立ちとその保全を考える。</p>




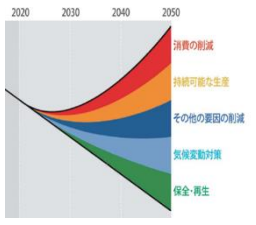


基本は午前中室内で座学、午後はフィールドに出て自然観察を行って、動植物や生態系について実践的に学び、動植物の観察や調査、自然環境保全について関わることをめざします。

<h2 style="text-align: center;">里山保全活動</h2> <p>各地で放置されて荒廃している里山を保全する活動について知り、里山林の毎木調査や管理・保全の方法を実践的に学ぶ。</p>		
<h3 style="text-align: center;">湿地の保全</h3>  <p>湿地の木道を歩きながら、湿生植物を観察。</p>  <p>保全されている惣ヶ池湿地。</p> <p>信太山の湿地環境の動植物を観察し、その保全活動の取組を聞く。</p>	<h3 style="text-align: center;">里山の保全</h3>  <p>コドラートの前で、管理作業の説明を聞く。</p>  <p>伐採した竹から竹炭を作る活動を見学。</p> <p>富田林の自然を守る会の田淵さんより奥ノ谷の保全活動を学ぶ。</p>	<h3 style="text-align: center;">植生管理実習</h3>  <p>毎木調査の結果から、里山林の管理計画を立案。</p>  <p>伐採する樹木を確認して作業に取り組む。</p> <p>里山保全の基礎となる毎木調査を行い、その結果に基づき管理作業。</p>

## 生物多様性と地球環境

地球温暖化や外来種生物の学習を通して、どうすれば世界の生物多様性を保全することができるかを考える。

<h3 style="text-align: center;">外来生物駆除</h3>  <p>セイタカアワダチソウなどの帰化植物を駆除。</p>  <p>駆除した帰化植物を活用して草木染に挑戦。</p> <p>帰化植物の問題点を学び、駆除を実践して食用や草木染に活用する。</p>	<h3 style="text-align: center;">気候変動と生物</h3> <p>保全協会の夏原会長から、地球の気温が決まる仕組みや気候変動が生物に及ぼす影響について学ぶ。</p>  <p>地球環境市民会議（CASA）から気候変動を阻止するための市民活動の重要性について聞く。</p> <p>気候変動の原因と現状を知るとともに、生物多様性への影響を学ぶ。</p>	<h3 style="text-align: center;">生物多様性保全</h3> <p>夏原会長から、生物多様性とは何か？多様性を守るための国際的な取組み・国家戦略について学ぶ。</p>  <p>生物多様性を守るために私たちができることや、生物多様性の調査方法、保全のための技術についても学ぶ。</p> <p>多様性保全の国際的な動向や私たちが身近に取組めることを学ぶ。</p>
--	--	--

主な講師陣 敬称略、50音順、事情により変更する場合があります。肩書は2024年11月現在。

伊東 明：大阪公立大学理学研究科教授	田淵 武夫：富田林の自然を守る会元代表
河合 典彦：国交省淀川環境委員会前委員	田丸 八郎：NPO法人信太の森FANクラブ理事長
河合 正人：元あやめ池自然博物館学芸員	中谷 憲一：大阪市エコボランティア 昆虫写真家
木村 進：大阪府立泉北高校元教諭 保全協会理事	夏原 由博：名古屋大学名誉教授 保全協会会長
幸田 良介：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所主任研究員	土生 陽子：木象嵌こぼみつ亭代表
小室 巧：サンバプロジェクト in 大阪代表	藤原 宣夫：大阪公立大学農学研究科教授 保全協会理事
澤島 拓夫：近畿大学農学研究科准教授	前迫 ゆり：奈良佐保短期大学・副学長
高田 直俊：大阪市立大学名誉教授(土木工学) 保全協会前会長	宮崎 学：地球環境市民会議(CASA)事務局長
田中 広樹：海のふしぎ観察会代表 保全協会副会長	山西 良平：西宮市貝類館顧問
田中 正視：男里川の干潟を守る会代表	